

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600132		
法人名	社会福祉法人 熊晴会		
事業所名	グループホーム あさひ塩野室		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-26		
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果市町村受理日	令和3年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を共に過ごす中で、入居者様一人一人の個性や好みに合わせた支援が心掛けております。日常の会話に耳を傾け、入居者様のご要望等をくみ取り、安心して笑顔を日々の生活を送れるよう心掛けております。月毎に行事を計画したり、季節を感じられるような設え・食事、レクリエーションを取り入れ楽しめるような取り組みを行っております。ご家族様への対応も丁寧に行い、気軽にご意見等が頂けるよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「あなたのあふれる笑顔と想いに寄り添います」を掲げ、利用者一人ひとりの要望や願いを把握しつつ、日々のケアにあたっている。職員定例会議や研修、自己チェックシートなどを通して、理念の定着とケアの統一や水準の底上げを図っている。利用者一人ひとりの思いや要望は、日常の言動から汲み取ったり、利用者の反応から推し量ったりして把握している。また、行動様式の特異性が以前の仕事で身につけたものから来していると思ひ至り、利用者をより理解できたこともある。「動いている方が楽だ」と話す利用者、縫い物や食事の片づけ等出来る事を一緒にやってもらうことなど、利用者一人ひとりができることをして、生活に張りや潤いを感じて貰っている。縫い物が好きな利用者は余暇の時間に自室で縫い物をしていたり、猫好きの利用者はぬいぐるみの猫といつも一緒にいる等その人のペースで暮らしている。新型コロナウイルス感染拡大防止のために面会制限を採る中、広報紙には生活の様子や個人の写真を載せ、家族に状況が伝わるよう心掛けて、家族とのつながりが途切れないようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	令和3年3月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしている。またカンファレンス内でも、職員へ意識づけられるよう確認を行っている。対話からそれぞれの想いを受け止め、職員間で情報共有し、信頼関係構築や安心・安全な生活ができるよう努めている。	理念「あなたのあふれる笑顔と想いに寄り添います」を掲げ、利用者一人ひとりの要望や願いを把握しつつ、日々のケアにあたっている。職員の入れ替わりもあり、管理者は職員定例会議やその中で実施されている研修などを通して、理念の定着とケアの統一や水準の底上げを図りたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、地域にある児童館の催し物への参加やボランティアの受け入れが無かった為、今後の課題としたい。機会があれば、同法人内施設での催しに参加したり交流を図っていききたい。また、地域との交流が持てるようはたらきかけていきたい。	元々、利用者の中で事業所の立地地域に住んでいた人が少なく、事業所と地域との結びつきが強いわけではなかった。それでも、コロナ禍の前は、傾聴ボランティアが毎週のように来ていたり、演奏のボランティアも来ていたが、コロナのために中止になっている。地域とのつながりを強化することが課題となっているため、管理者は、毎月、開催されている自治会長の定例会に参加させて貰いたいと考えている。	隣に別法人のグループホームがあり、当事業所も数年前に名称を変更したいきさつがあるため、まずは、地域の人達に事業所の名前と存在を知ってもらうことが必要であり、地域の自治会との関係強化を期待したい。また、事業所への入り口に立ててある旧名称の看板を、現在の名称に作りかえることが必要である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践している事が無い為、課題としたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長様や民生委員様に呼びかけ、可能な限り参加して頂いている。入居者の状態や日常の様子等を報告し、課題については参加者から意見を頂いている。	今年度はコロナ禍のために、資料書類を参加予定の委員に送付し、意見書で返事を貰う形として開催している。多年にわたって目標となっていた運営推進会議の年6回開催については、今年度書面開催となったため実現できた。運営推進会議で課題としてあげられているのは、地域との関わりが持っていないことや、地域の人に参加する催し物を開催出来ていないことである。	コロナが収束して、実際に顔を合わせる会議になっても、年6回の開催が継続できるように努力してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や報告事項等ある時は、すぐ市町村担当者に連絡をして確認をしている。また、必要に応じて助言を頂いている。	市とのやり取りは、通常2ヶ月に1、2回程度で、必要な報告や書類提出が主な関係である。市の実地指導では、重要事項説明書や運営規定の訂正・追記の指導があり、疑問点等に関してもその都度丁寧に助言をしてもらっている。コロナの感染予防対策を行っている中で、「家族への丁寧な対応」や「利用者のADLや興味関心の低下の防止」等について助言を貰って、運営やケアの実施に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間予定を立て、委員会を3カ月毎、研修を年2回確実に実施するよう努めている。研修では、身体拘束に関する自己点検や基礎研修、事例検討や接遇を取り入れたものを実施している。玄関は日中開錠しており、鈴を取り付け安全面に配慮している。	職員定例会議の中で実施している「身体拘束適正化委員会」は、実際の現場で見つけた問題点を事例に挙げた検討会や、接遇面から見た身体拘束というような内容の研修を行っている。「自己チェックシート」を用いた自己点検を実施し、虐待防止を含めた、現場で行っているケアへの基礎からの振り返りを行っている。現場では、スピーチロックにつながりかねない言動も見られるとして研修を行い、今後も継続的に課題にして、改善に努めたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する自己点検を行い、結果を集計し課題に対しては解決に向けて話し合っている。日常でも職員同士で注意を払い、外傷等に関しては事故報告書を作成し、原因究明や改善策を検討し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修等を活用し学習する機会を持ちたいが、行えてない為今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の立場に配慮し、不安や疑問点を含めて丁寧に説明を行い、納得して頂いた上で契約を行っている。改定があった場合でも、同様に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日常会話の中で出た意見や要望は、可能な限り実現するよう努めている。また、気軽に意見や要望を出せるよう信頼関係構築に努めている。家族からの意見や要望も、来所時や電話連絡時に伺えるよう努めている。玄関にはご意見箱を設置している。	家族には年数回、利用者の姿や生活の様子の写真を多数掲載した広報紙を届けている。運営推進会議には3名の家族が参加しており、全体的に家族との関係は良好である。意見や要望を聞き取ることの出来る家族会が設置されているが、今年度は開催できなかった。	面会制限がある中、リモートによる面会の要望があるようなので、実施を検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間のコミュニケーションを大切にし、意見や提案がある時はカンファレンス等でその都度話し合っている。必要に応じて、代表者との面談も行っている。	働きやすい職場構築に向けて、職員定例会議等を利用して意見交換を行い、業務や支援の仕方について改善を図っている。一方で、個人的な就業や雇用条件に対する要望については、直接理事長と話し合う機会がある。その他、直属の上司に話すこともでき、いろいろなルートを通じて、職員の意見を聞き取り、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の仕事への取り組み方や勤務状況等を代表者へ報告することで現状を共有し、職員それぞれの個性や得意分野、専門知識等を現場での勤務で活かすことでやりがいや向上心が高まるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員とのコミュニケーションや現場での勤務姿勢等から、一人ひとりのケアの実際と力量の把握に努めている。研修の情報が入り次第告知し、可能な限り多くの職員が参加できるように勤務調整等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、可能な限り研修等に参加している。必要時には、同法人内の別事業所と連絡を取り合い報告・相談を行っている。職員が同業者と交流する機会が少ない為、今後の課題としたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を通して不安な事や要望等を可能な限り聞き出せるよう、傾聴を基本にして環境や話し方への配慮を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を通して不安や要望等を可能な限り聞き出せるよう、環境や話し方に配慮している。家族が気軽に不安な事や困り事、要望が言えるよう丁寧な対応を行い関係づくりに努めている。また、玄関にご意見箱を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や要望を踏まえ、グループホームでのサービス内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の気分や状態・状況に配慮しつつ、一緒に清掃や食事に関わる調理・盛り付け、食器拭き等の片付けを行っている。くつろぐ時間等を含め一緒に過ごす事で、共に生活をして支え合う関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりは主に来所時や電話連絡時となり、その際に本人の様子を報告したり本人・家族の思いを伺い、必要に応じてケアの方向性等を検討し、一緒に支えられるような関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ウィルス感染予防の為面会禁止にしているが、家族以外からの手紙や電話連絡が来た際は、可能な限り本人に対応をお任せし、馴染みの人との関係継続に努めている。	コロナの状況に応じて、面会禁止にしたり、窓越し面会を行ったり、電話連絡が来た際希望者にはその場で取り次ぎ会話が出来るよう対応している。年に3、4回発行して家族に送っている広報紙には、出来るだけ生活の様子や個人の写真を載せ、家族に様子が伝わるよう心掛けて、家族とのつながりが途切れないようにしている。事業所内の人間関係が円滑になるように、リビングでの席の配置を工夫したり、トラブルになりそうな時は職員が間に入って調整している。	利用者は市内の広範囲から入居しており、利用者と地域とのつながりが希薄である。コロナが収束した後は、隣接している同じ法人の特別養護老人ホームとの交流や職場内託児所の子ども達との交流等にも取り組むことを検討してほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や環境を考慮し、座席を工夫している。職員は目配りを怠らず、関わりを持ち孤立しないよう努めている。また、レクリエーションやイベント等は皆が参加して楽しめるような内容を企画し行うよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践出来てないが、関係性を大切にして必要に応じて対応を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人や家族の希望・意向に耳を傾けている。状態により困難な場合は、本人に寄り添い表情や仕草等から汲み取るよう努め、必要に応じてより丁寧に対応して把握に努めている。	利用者一人ひとりの思いや要望は、日常の言動から汲み取ったり、職員が提案や選択肢を出してその反応から推し量ったりして把握している。また、行動様式の特異性が以前の仕事で身につけたものから来ていると思ひ至り、利用者をより理解できたこともある。「動いている方が楽だ」と話す利用者、縫い物や食事の片づけ等出来る事を一緒にやってもらうこと等、利用者一人ひとりができることをして、生活に張りや潤いを感じて貰っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境等は、事前調査の情報や普段からコミュニケーションを取ることで把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の食事・排泄・睡眠等から、現状の把握に努めている。暮らし方や生活リズム、その時々的心身状態を把握し、それらを踏まえた上で出来る事・出来ない事を見極めている。必要に応じてカンファレンスで話し合い、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでより良い暮らす為の課題やケアの在り方等を話し合い、内容を全職員で共有している。	管理者、計画作成担当者、看護師を含め、職員全員が利用者のケアを担当し、利用者それぞれを把握している。また、毎月開催する職員定例会議(カンファレンス)では、利用者担当介護職員から利用者の状況報告があり情報を共有している。計画作成担当者は、これらの情報や家族からの聞き取りをもとに、半年から1年ごとにモニタリングを行い、必要な時には再アセスメントを実施して計画の見直しをしている。ケアカンファレンスで示された、筋力低下が見られる利用者への対策として、日常的に数種の運動を取り入れるよう提案があり、計画に取り入れた事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々過ごしている中での行動や発した言葉や会話、気づき等を個人記録として残している。また、引き継ぎ時の申し送りや連絡ノートで情報共有し、共通理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態変化等様々な状況により生まれたニーズに対しては、本人や家族と話し可能な限り柔軟に対応するよう努めている。現状に合わせ、様々な可能性を考慮し支援に活かす事を課題としたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、行動制限によりボランティアの方や地域と関わりが少ないが、今後の状況に応じて関係構築を行い、地域資源を活用しより充実した生活が送れるよう努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在協力医の往診は休止中だが、必要に応じて状態の報告や定期受診を行っている。何かあれば指示を仰ぎ、状況に応じて協力医やかかりつけ医の受診を行っている。疾患や特変等は、家族へ确实・正確に伝達するよう努めている。	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし、協力医への連絡や受診は職員が対応し、協力医の診察科目以外の病院への受診は家族が付き添っている。入所前のかかりつけ医を継続している利用者の病院への受診は家族が対応している。受診結果はすべて申し送りノートや介護記録に記入して情報を共有している。希望者は協力医のクリニックで定期的に健康診断を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気付いた入居者の変化や、薬剤・処置等に関しては、必要に応じて看護師に報告・相談をして適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、サマリーを提出している。入院中は可能な時に面会に行き情報交換をしたり、病院で状況報告が行われる際には、家族に了承を得て参加させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取り介護は行っていないが、定期的に看取り介護勉強会を行い職員間で知識を深めている。	平時より利用者の体調の変化に注意し、緊急の状況かどうかの判断は医師や看護師に相談し、家族にも逐一報告している。緊急搬送に備えて、予め、延命処置の希望の有無の確認書を提出してもらっている。現在は重度化や終末期に近づいている利用者はおらず、家族からの看取りの要望もないが、職員は年2回の看取り介護の勉強会を続けている。	事業所として、看取りを実施するかどうかの方針は定まっていないので、職員の勉強会を進める中で、今後備えて、方向性を見出し出してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルがあり、急変時等にはそれに沿って対応を行っている。定期的を確認したり、講習にする等して知識を深めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策マニュアルを確認し、いつでも対応できるようにしたい。防災訓練の年間予定を立て、昼・夜想定で定期的に訓練を行っている。全職員が重要性を認識し、災害時に適切な対応が出来るよう努めていきたい。また、備蓄の確認や地域との協力体制構築にも努めていきたい。	しばらくの間未実施だった夜間想定での避難訓練を、今年度は2回行なった。訓練後の反省会で、誘導に時間がかかる難聴や就寝中の利用者には先に声をかけることや、出火場所によっては誘導の工夫が必要等の意見が出された。職員全員が訓練に参加できて訓練内容を共有することができた。災害用備蓄はペットボトルの水を2ケース用意しているが、今後充実していきたいと考えている。コロナ禍で地域との関わりが持てない為、訓練への協力依頼はできなかった。	火災や昼夜に限らずあらゆる場面で、職員が利用者の状態に応じた避難誘導を自信を持って行うことができるよう訓練を繰り返し続けて欲しい。地域の住民の協力が得られるよう努力するとともに、隣接する施設と災害時に互助、協力体制がとれるよう、平時から話し合いを進めておくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員本位の声掛けにならないよう注意していきたい。プライバシーを損ねないよう、職員同士で排泄の確認を行う際他入居者に分らないよう工夫したり、羞恥心や思いに寄り添う対応を心掛けている。また、接遇研修も取り入れている。	職員は接遇チェック表を付けており、利用者の行動を抑えるような声かけや、排泄や入浴等、利用者が羞恥心を感じる場面で誘導する言葉使いについて自己点検をし自分の言動を振り返っている。職員は利用者慣れ慣れしすぎず、利用者一人ひとりに合わせた丁寧な言葉使いや対応、利用者の思いに寄り添う介護を心がけている。また、広報紙への写真掲載についても、プライバシーに配慮して予め同意を取っている。	個人情報の取り扱いと同様に、背表紙に利用者の名前の書いてあるファイル等も他の目に付かないよう保管方法に配慮して欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から信頼関係構築に努め、会話の中から入居者が思いや希望を言えるような雰囲気作りを心掛けている。一つ一つの行動の中で、可能な限り自己決定出来るよう支援方法を見極め、意向を確認したり提案する等状況に応じて対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は、リビングで塗り絵やパズルをしている方、新聞や雑誌・本を読んでいる方、テレビを観たり居室で過ごしている方等があり、入居者のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床・就寝時の着替えの際に、好みの服が着られるよう選んで頂いている。自分でメイクや小物を使用している方もいる。散髪は、状況により希望の有無や、分からない方は定期的に行っている。可能な時にご家族と馴染みの美容室に行かれる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や入居者の希望を取り入れながら、職員が献立を作成し、状況に応じて入居者と買い物に行っている。また、食材を切ったり混ぜたり盛り付けをしてもらったり、個々に合った食形態で提供している。食事後は、食器拭きをもらっている。	職員が作る料理を混ぜたり盛りつけたり、食後の片付けや食器拭き等に、全員の利用者ができることに関わり参加している。男性も声をかけられるとテーブル拭きや食器拭きを手伝っている。外食ができなくなったが、利用者の好きな麺類や赤飯、けんちん汁、ちらし寿司、誕生会にはケーキを作ったり、又敬老の日にはテイクアウトの握り寿司を用意したりしてたいへん喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みを把握し、バランスを考慮しつつご本人に合った量や形態で提供できるよう努めている。水分摂取量も常にチェックし、進まなかったり足りてない方には、声をかけたり飲みたい物を聞いて提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声をかけ口腔ケアをもらっている。自分で行えない方は、介助している。義歯には週3回洗浄剤を使用し、清潔の保持を心がけている。また、必要時にはご家族に歯科受診の依頼を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、チェック表を活用しつつ必要な方には声をかけ誘導している。その際は、汚物をトートバッグに入れ破棄する等プライバシーに配慮すると共に、尿量や身体状態を見ながら必要に応じてリハビリパンツやパッドを使用する等自立に向けた支援を行っている。	日中は自らトイレに行く人と職員の声かけでトイレに行く人がいるが、全員トイレでの排泄ができている。夜間は残存機能や尿量、睡眠優先等を考慮して、利用者の必要とする支援をしている。排泄の自立を目標として計画書に載せて支援している利用者も複数いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ったり、食事で乳製品・果物・野菜を提供している。便秘の方には水分を多めに勧めたり、必要に応じて下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できるよう支援している。入浴中はリラックスできるよう音楽を流したり、入浴剤や季節により保湿剤を使用している。また、衣類の着脱、洗髪・洗身等はご本人のペースに合わせるよう努めている。	週2回の入浴で、利用者の自立度やペースに合わせて声かけ、見守り、介助等をしている。異性介助を拒む利用者には同性で対応している。1対1で浴室内で介助する時は昔の話や仕事の事等利用者に合わせて会話をしている。浴室や浴槽内、足拭きマットの下に滑り止めマットを敷いて転倒防止に配慮している。入浴剤を毎回利用し、ゆずの季節にはゆず湯を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況を考慮しつつ、必要な方へは就寝への声かけを行っている。居室内の照明や温度に配慮し、エアコンや包布等で調整したり、冬場は乾燥を防ぐべく加湿器を活用している。希望者には自前の寝具を持ち込んで頂いている。起床時や日中は、包布類をたたんで置く等環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助前後は職員同士でダブルチェックを行い、入居者の口内に入り飲み込むまで見守ることで、ミスなく確実に服用してもらえよう努めている。症状の変化や内服薬の変更があった場合は、看護師や協力医に相談したり申し送りや記録等で情報共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリをつけるべく、洗濯物たたみや掃除等を一緒に行ったり、体操やレクリエーションや趣味を行う中で、一人ひとりの力を活かして楽しんだり気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な時は散歩や買い物、ボランティア・地域の催し物等へ外出している。その他機会は少ないが、年間行事予定を立てて外出支援を行うよう努めている。日々の会話等で出た外食の希望は、可能な限り実現している。	コロナ禍以前は毎月外出行事を企画して初詣や花見、外食等に全員で出かけたり、希望者を同行して買い物に行っていた。コロナ禍では可能な時に施設の周辺を散歩することや室内での手足の運動をすることしかできなかった。	前回の目標達成計画の課題になっていた「外出の機会が少ない」を再度改善目標にし、遠出外出はできなくても、短時間のドライブで車窓から季節の景色を眺めて気分転換したり、日常的な散歩や筋力強化の運動を日課の中に取り入れ、コロナ禍でのADLや気力の低下防止に努めて欲しい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は、主に外食や本人の日用品等の購入に使用している。職員は本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、状況に応じて支払いができるように支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用を希望されている方に限らず、外出・面会が出来ない状況においての家族・知人からの希望に対しては、可能な限り取り次ぎを行っている。また、携帯電話を使用している方もいる。手紙に関しては、届いたものに返信出来るような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に木材を使用した落ち着いた色彩で、陽の入り具合や空調等にも配慮している。リビングには観葉植物を置いたりその時々で飾り付けをして、季節を感じたり楽しめるような雰囲気作りに努めている。トイレ等で汚れや臭いを発見した場合は、その都度清掃し使用者が不快にならないよう努めている。	日当たりの良いリビングにはテーブルが大小4台あり、利用者はここで食事をしたり、余暇の時間にテレビを見たり歓談したり、塗り絵やパズル、体操等をして過ごしている。内装に木材が使われ観葉植物の緑とで落ち着いた雰囲気になっている。壁面には職員が作ったその月らしい行事や風物詩の折り紙作品が飾られている。レクリエーションを利用して利用者や職員が共同で製作した作品を飾ることもある。事業所の回りに花壇があり利用者や職員が世話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中のほとんどの時間をリビングの自席で過ごされる入居者が多いので、相性や性格等を考慮し自席の配置を工夫している。また、リビングや通路にはソファや畳スペースが置いてあり、自由に使用できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家電品や寝具等を持ち込んで頂いている。自身の作品やご家族との写真等を飾っている入居者もあり、居心地良く過ごせるような工夫している。	居室にはカーテン、エアコン、電動ベッド、洗面台、戸棚等が備えられている。南に面した4室にはそれぞれベランダが造り付けられていて、手すりに布団を干すことが出来る。利用者は寝具や馴染みの物を持ち込み、カレンダーや親族の写真、ぬいぐるみ等好きなものを飾っている。縫い物が好きな利用者は余暇の時間に自室で縫い物をしていたり、猫好きの利用者はぬいぐるみの猫といつも一緒にいる等その人のペースで暮らしている。掃除は毎日職員が、可能な時は利用者も一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、カーテンの色を変え認識し易いよう工夫している。トイレ付近の壁にも、それだと分かるよう表示をしている。また、トイレやリビング周りの洗面台近くの手が届く所にペーパータオルを置き、自立して行動できるよう工夫している。		